

# 第三章 文化財

# 第一節 町指定文化財

横川町では、町内文化財の保存及び活用のため必要な措置を講じ、もって郷土文化の向上に資することを目的

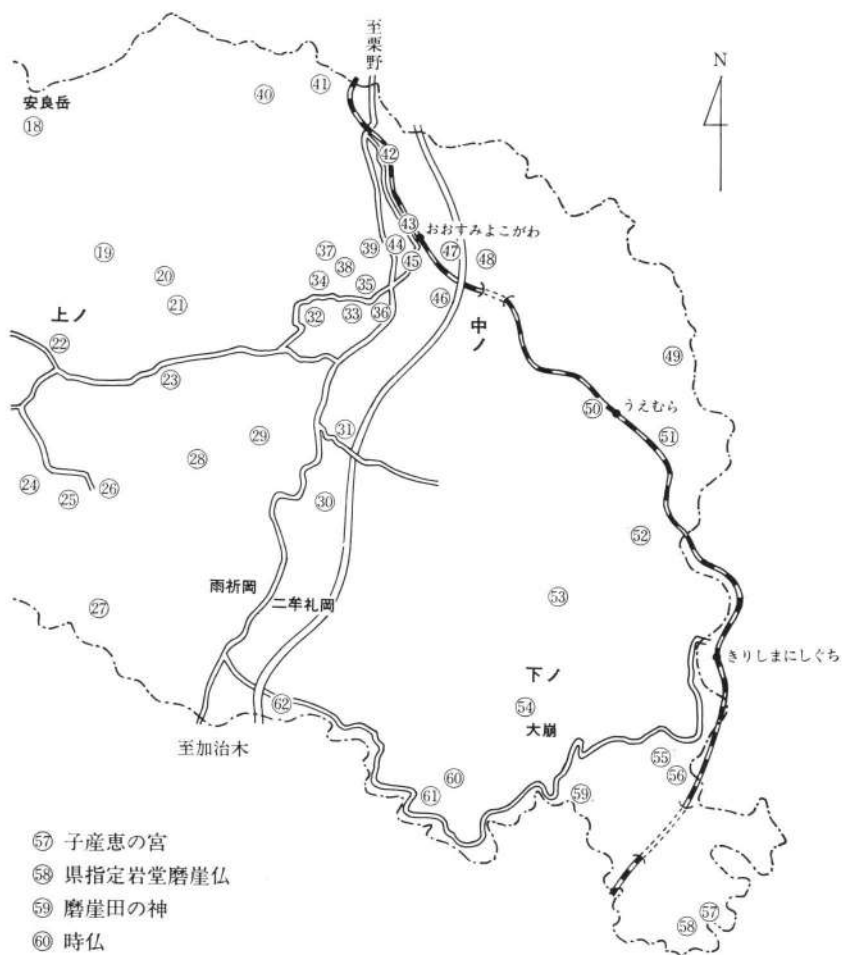
第1表 町指定文化財

番	種別	名称	所在地	指定年月日	所有者
1	記念物（史跡）	徳源社	上ノ夢想谷	昭和37・2・1	株式会社島津興業
2		木浦権現の跡	上ノ木浦		木浦秋男
3		弓削ヶ丘	上ノ茶円山		福吉一隆
4		阿弥陀寺の跡	上ノ阿弥陀原		有村一夫
5		安良神社	上ノ安良		安良神社代表脇田圭一
6		腰越神社跡	上ノ下小脇		横川町
7		安良山来福寺真乘院跡	中ノ脇		原元治
8		仙寿寺跡	中ノ馬場		四元善久
9		横川城（長尾城）跡	中ノ城山		横川町
10		民部塚	中ノ民部塚		横川町

として、「横川町文化財保護条例」を制定し、また、それらが適正に行われるために、教育委員会に「横川町文化財保護審議会」を設置している。

平成二年現在、町にとって重要なものとして、第1表の一〇か所を「町指定文化財」として指定している。すべて記念物としての遺跡（史跡）である。

# 所在案内図



- ⑤7 子産恵の宮
- ⑤8 県指定岩堂磨崖仏
- ⑤9 磨崖田の神
- ⑥0 時仏
- ⑥1 馬頭観音
- ⑥2 サヤン神
- ⑥3 第三金山橋  
(ジョムタバシ)

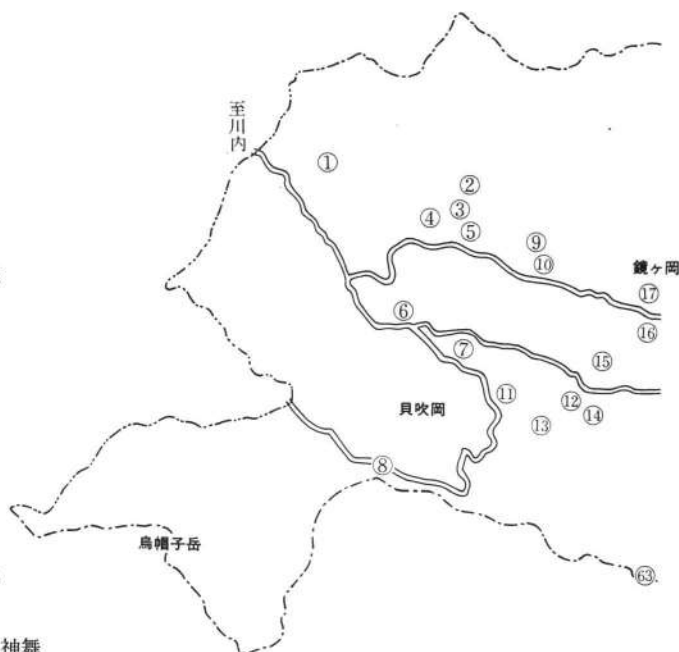
# 第1図 主な文化財

- ① 徳源社
- ② 山ノ神社
- ③ 恵比須堂
- ④ 天神社
- ⑤ 馬頭観音
- ⑥ 羽山神社
- ⑦ 木浦権現
- ⑧ 秋葉神社
- ⑨ 古城跡
- ⑩ 田の神・二里塚
- ⑪ 弓削ヶ丘
- ⑫ 太鼓踊
- ⑬ 田の神
- ⑭ 田の神
- ⑮ 阿弥陀寺跡
- ⑯ 田の神

- ⑰ 俵踊
- ⑱ 安良神社古宮跡
- ⑲ 安良神社
- ⑳ 四方立舞・田の神舞
- ㉑ 腰越神社跡
- ㉒ 田の神・馬頭観音
- ㉓ 一里塚
- ㉔ 稚子神
- ㉕ 馬頭観音
- ㉖ 田の神
- ㉗ 馬頭観音
- ㉘ 田の神
- ㉙ 西南戦役土塁
- ㉚ 馬頭観音
- ㉛ 民部塚
- ㉜ 横川城跡

- ㉝ 陣之尾
- ㉞ 吉次ヶ淵
- ㉟ 丹後ヶ淵
- ㊱ 招魂社
- ㊲ 仙寿寺跡
- ㊳ 石敢当
- ㊴ 真乗院跡
- ㊵ 田の神
- ㊶ 田の神
- ㊷ 耕地整理記念碑
- ㊸ 五輪塔
- ㊹ 愛宕神社・不動明王

- ㊺ 恵比須堂・役所跡碑
- ㊻ 南方神社
- ㊼ 中尾田城跡
- ㊽ 鳥越城跡
- ㊾ 開墾碑・水神碑
- ㊿ 石敢当
- 51 豊受神社
- 52 田の神
- 53 五輪塔
- 54 佐々木城跡
- 55 釈迦像(赤水家)
- 56 池月の墓

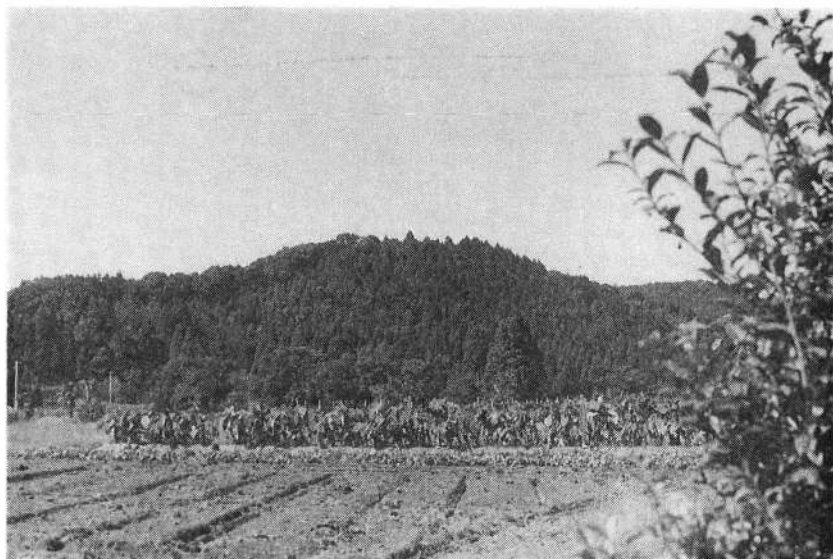




徳源社



木浦権現の跡



弓削ヶ丘



阿弥陀寺の跡



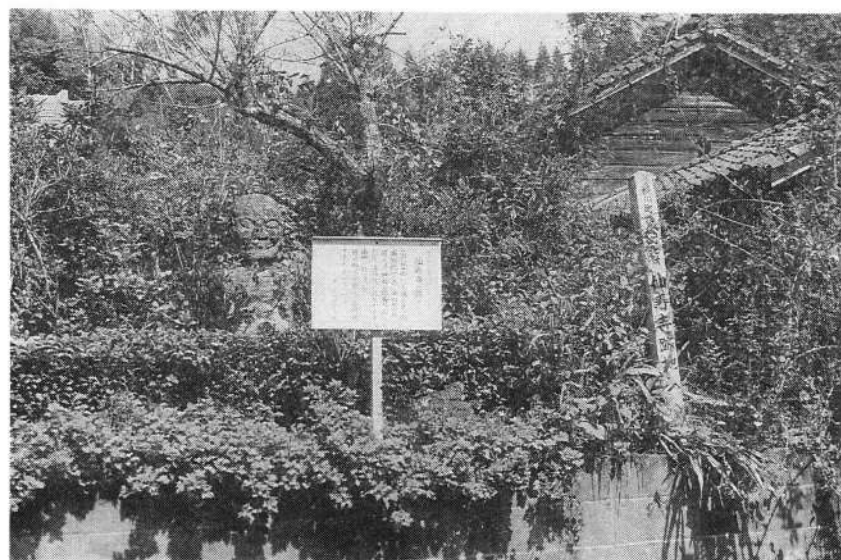
安良神社



腰越神社跡



真乗院跡（十一面観音と不動明王）



仙寿寺跡





横川城（長尾城）跡



民部塚

## 第二節 遺跡・建造物

町指定とはなっていないが、昔から遺跡として知られているもの、近くの人々が参詣している神社や祠、明治初期の廃仏毀釈によって取り壊された寺院などの主なものは第2～4表のとおりである。

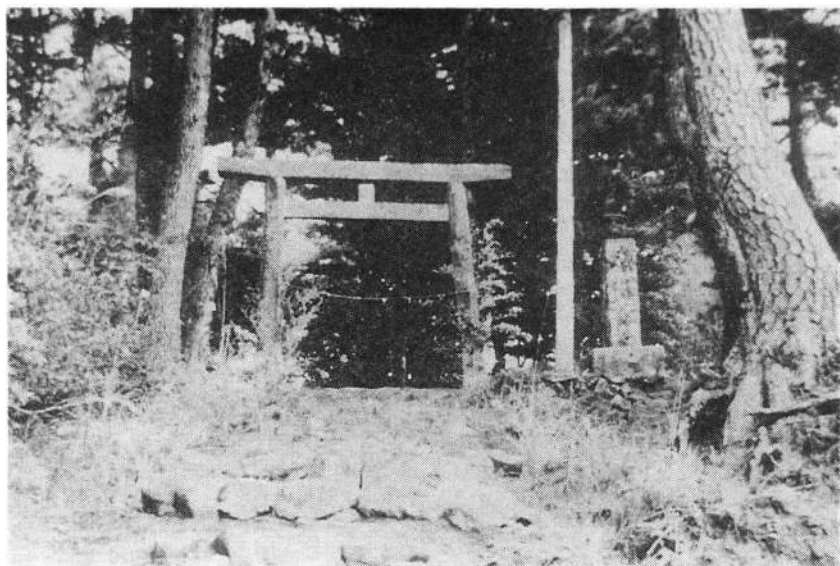
第2表 遺跡(史跡)

番	史跡名	所在地	備考
1	佐々木城跡	下ノ大崩	一二世紀の佐々木高綱の居城だったと伝えられる。
2	古城跡	上ノ古城	横川城の出城で永禄五年(一五六二)落城したという。
3	鳥越城跡	中ノ下尾田	横川城攻めのとき、島津義弘の陣所があった所という。
4	中尾田城跡	中ノ下尾田	弥生時代の住居跡、中世の城跡の複合遺跡として有名

第3表 神社

番	神社名	所在地	備考
5	陣之尾	中ノ城山	横川城攻めのとき、新納忠元が陣をとっていた所という。
6	吉次が淵	中ノ城山	北原伊勢介の子吉次が横川城落城のとき、入水自害した所
7	丹後が淵	中ノ宮下	北原伊勢介の家老迫田丹後守が戦死した所という。
8	招魂社	中ノ向江	戊辰戦役から太平洋戦争までの慰霊碑と記念碑がある。

番	神社名	所在地	備考
1	豊受神社	中ノ下植村	明治一七年飯野(へびの市)から移して祭った。
2	南方神社	中ノ旭公園	諏訪神社ともいう。荒神社・久木元神社を合祀
3	大山祇神社	上ノ上本町	山ノ神社ともいう。
4	愛宕神社	中ノ上ノ山	防火の守護神
5	秋葉神社	上ノ野坂	防火の守護神
6	天神社	山ヶ野小跡	学問の神
7	菅原道真公分霊	安良神社	目床秋彦が町長時代に勧請したもの
8	羽山神社	上ノ木浦	牛馬の神が祭ってある。



昭和20年代の徳源社



秋葉神社（野坂）

第4表 仏閣（明治初年の廃仏毀釈により取り壊される）

番	寺院名	所在地	備考
1	万亀山仙寿寺	中ノ川北	その跡は町指定になっている。禪宗（曹洞宗）
2	来福寺真乗院	中ノ川北	その跡は町指定になっている。真言宗
3	阿弥陀寺	上ノ正幸田	その跡は町指定になっている。
4	禪宗久昌寺	上ノ上本町	鹿兒島福昌寺三一世巖宝和尚開基と伝えられる。
5	法華宗遠沾寺	上ノ上本町	現在墓地になっている。
6	薬師堂	上ノ下本町	永禄四年と記した薬師木像があったらしい。
7	恵比寿堂	上ノ下本町	現存している。詳細不明
8	恵比寿堂	中ノ仲町	商工会館前。現存している。詳細不明
9	愛宕堂	上ノ小谷町	現存している。詳細不明
10	浄土宗護念寺	上ノ下本町	現存している。詳細不明



恵比須堂（仲町）

### 第三節 有形民俗文化財

#### (一) 田 の 神

水田稲作の守護神として一八世紀前半から造られた田の神は旧薩摩藩領内特有のものといわれている。横川町内のもものは第5表のとおりであるが、大体江戸末期から明治にかけて造られている。

現在も田の神講が続いている郷中がある。古城の田の神講は旧四月九日と一〇月九日の春秋二回行われ、田の神石像に餅もちをぬりつけるという習わしがある。馬渡の田の神講は持ち回りの田の神を預かっている家に郷中の人々が集まり酒宴を催し、次の当番の家に担いで行く。町内の田の神講は農業後継者の減少で衰退の傾向にあるようだ。

第5表 田 の 神

番	所 在 地	備 考
1	上ノ山ケ野雄城スエナ宅の山林	以前は持ち回り田の神であった。
2	茶屋田尻藤義宅	自然石である。
3	野坂秋葉神社	法師型。「享和三年」(一八〇三)と記されている。
4	古城県道脇	田の神舞型
5	正牟田運動場脇	田の神舞型
6	正牟田池脇	神職型
7	紫尾田公民館横	法師型(写真のもの)
8	北園県道脇	持ち回り田の神
9	木浦郷中	法師型
10	柿木大住入り口三文字	
11	上小脇公民館横	
12	岡村道路脇	磨崖田の神
13	上深川迫田祐二郎宅	二体あり
14	中ノ向江招魂社下	(写真のもの)
15	中ノ山ノ口今村静香宅入り口	
16	猿渡則馬宅	
17	中尾田住宅入り口	
18	下植村野間寅支宅	
19	上野正行宅	



田の神（北園）

28	27	26	25	24	23	22	21	20
馬渡・下深川（現在所在不明）	〃	〃	〃	〃	〃	下ノ赤水赤水勝子宅	〃	〃
	崖	岩穴大出水の山中の	前川内道路脇	前川内公民館内	小原公民館内	赤水郷中	黒葛原新田堰横	下植村中郷中
<p>持ち回り田の神</p> <p>持ち回り田の神（写真のもの）</p> <p>二体あり、以前は持ち回り田の神であった。</p> <p>以前は持ち回り田の神であった。</p> <p>二体あり、磨崖田の神</p> <p>両集落で「田の神オットイ」をしあったという。</p>								



赤水持ち回り田の神



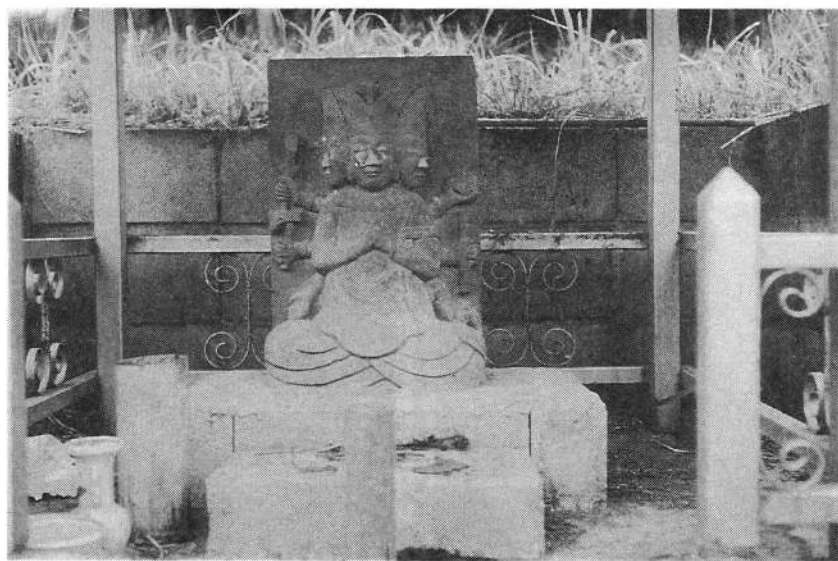
田の神（山ノ口）

## (二) 馬頭観音

農家が牛馬の繁昌を祈って建てたものだといわれている。横川町も昔から牛馬の飼育生産が盛んであったので、第6表のように各地に建立されたようだ。明治から昭和初期までは春の花見時に村中総出の慰安を兼ねたお祭りが行われていた。

第6表 馬頭観音

番	所 在 地	番	所 在 地
1	上ノ茶屋 ゲートボー ル場	10	中ノ下植村 内ナシ
2	柿木 運動公園下	11	山ノ口 丸山良徳
3	床波 留岡緑地岡	12	宅上
4	木浦 羽山神社	13	下ノ馬渡 牧ヶ丘
5	紫尾田 公民館隣	14	岩穴 月野木宅入 り口
6	上ノ野坂 秋葉神社	15	岩穴 ゲートボー ル場
7	中ノ下深川 大道出口		前川内 旧公民館
8	下植村 金山川東		跡
9	側 下植村 豊受神社		



岩穴の馬頭観音（月野木宅）



馬頭観音（野坂）

(三) 石敢当

街の道路の行き当たりや、家の垣根に道が突き当たる場所に建てられた石碑を石敢当（せいかんとう）という。「石敢当」と彫り込んである。これは、悪魔や悪い風は道路を直進して屋敷内に飛び込んで来るといわれ、それを防ぐ必要から考え出されたという説が有力である。

第7表 石敢当

番	所 在 地
1	中ノ川北公民館隣
2	宮下杉山宅前
3	清水町柿木田宅
4	下植村飯屋商店横
5	宮下中國宅前





石敢当（宮下）

## (四) 五輪塔・宝篋印塔

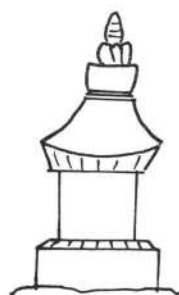
平安末期から室町時代に墓塔として、又は供養塔として建てられたものである（第8表）。上ノ阿弥陀原の五輪塔には元徳二年（一三三〇年）八月と刻まれているものもある。中尾田住宅隣の五輪塔や赤水岩堂観音前の宝篋印塔は逆修供養塔ぎさくくわんぎょうたといって、生きているうちに死後の供養をするために建てたものであると考えられている。

第8表 五輪塔・宝篋印塔

番	所 在 地	番	所 在 地
1	上ノ正牟田阿弥陀原	6	中ノ堂山迫山口宅上
2	中ノゴシキ墓地	7	中ノ中尾田住宅隣
3	清水町柿木田宅	8	下ノ山住風呂ノ元
4	下植村伊地知宅上	9	赤水梅ノ木迫
5	上向江石野田家墓地		



五輪塔群（正牟田）



宝篋印塔



五輪塔



宝篋印塔（赤水岩堂観音前）

## (五) 仏 像

町内の旧家には仏像のあるところがある。先祖伝来のものや地域の共有物であったりする場合もある。仏像打ち壊しの被害にもあわず現存している。現在わかっているものは第9表のとおりである。

第9表 仏 像

番	所 在 地	備 考
1	下ノ赤水赤水カツ子宅	釈迦如来像
2	中ノ深川 深川晋宅	仏像
3	中ノ深川 前田保太宅	阿弥陀如来像
4	中ノ向江 山口吉資宅	薬師如来像
5	中ノ向江 山口耕馬宅	虚空蔵菩薩
6	中ノ上ノ山運動場横	不動明王像
7	中ノ上ノ山運動場横	四天王の一つ
8	中ノ川北 真乗院跡	十一面観音像
9	中ノ川北 真乗院跡	不動明王像
10	上ノ柿木 柿木清宅	観音像
11	上ノ正牟田有村一夫宅	仏像



虚空蔵菩薩（山口氏蔵）

## (六) その他の石像・石碑・石造物

ア 時仏 岩穴にある。由緒不明。

イ 池月の墓 赤水にある。元暦元年（一一八四）木

曾義仲と源義経が宇治川で戦ったとき、義経の家臣佐

々木高綱と梶原景季がそれぞれ源頼朝から与えられた

駿馬池月（生暖）、磨墨（摺墨）に乗って先陣を争い、佐

々木高綱が勝った（『平家物語』にある）。そのときの

佐々木高綱が乗っていた馬の墓だと伝えられている。



時仏（岩穴）



池月の墓

ウ 北原伊勢介夫妻の供養塔 城山にある。宝永二年

(一七〇五) 村人が夫妻の霊を慰めるために建てたもので、「転宗慶伝居士 月江妙秋大姉」と記してある。

エ 庚申供養塚 上植村安永一成宅にある。元禄一四

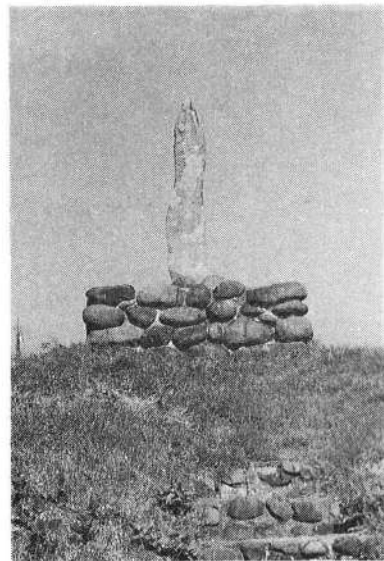
年(一七〇一) 辛巳九月と記してある。江戸時代、庚申の日に、人の体内にいる三戸の虫が、人が眠ると体内から抜け出して天帝にその人の悪口を告げ、そのため天帝はその人を早死にさせるといふ信仰があった。それで、庚申の夜は行動をつつしんで眠らないという風習があった。庚申の日に行われる講が庚申講で、上植村では現在も行われている。

オ 六面地藏 六地藏塔ともいわれ、江戸時代に地藏が六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上道)をめぐりながら民衆を救うという思想に基づいて造られたものという。町内には下町重留宅、黒葛原月野木優宅、山住永野宅などに建てられている。

カ 神像 神像に類するものに第10表のものがある。

水神や道祖神はまむしや夜尿症にきく神でもある。

第10表 神 像

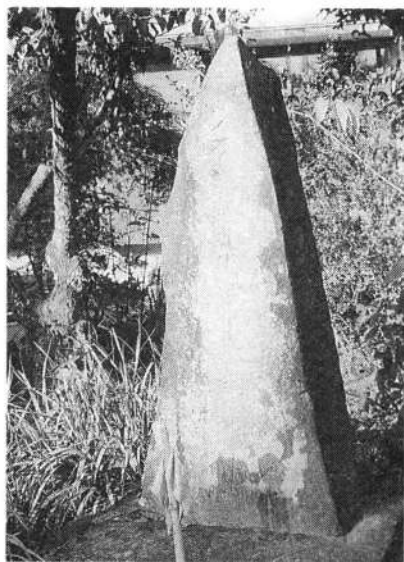


北原氏夫妻供養塚

番	所 在 地	備 考
1	下ノ前川内	道祖神・夜尿症の神
2	下ノ馬渡防火田水槽横	水神・まむしの神
3	中ノ下植村金山川東側	水神・まむしの神
4	中ノ下植村開墾碑横	水神
5	中ノ黒葛原吊橋横	水神・まむしの神
6	中ノ黒葛原 大山宅後	歯の神
7	中ノ下植村	歯の神
8	中ノ下植村	歳(とし)の神
9	上ノ柿木	水天殿・水瓶どん
10	上ノ柿木 柿木靖宅	稚子神(おちしぎあ)



六面地蔵（黒葛原田野木宅）



庚申供養塔（上植村）

番	橋名	所在地
1	片白橋	中ノ牧ノ原
2	山ノ口橋	中ノ川床
3	第一橋	上ノ内佐牟田
4	第三橋	上ノ川路尻
5	天神橋	上ノ普請方
6	山ケ野橋	上ノ上本町

第11表 石 橋

キ その他の供養塔・無縁墓 北園一次源次宅、上深川迫田土信宅、下植村内無シ、下植村棚ヶ迫、下植村内村、赤水海老ヶ迫砂雄宅、山住風呂ノ元、馬渡平岡柿木名子屋敷、下ノ後迫などにあるが、形もいろいろで詳細は不明である。下深川真中寺坊主墓、川北仙寿寺坊主墓、黒葛原の風岩宗薫禪定門も今では無縁墓である。また、山ヶ野上本町の女郎墓は金山全盛時代の名残である。

ク 石造の橋・倉 石造の橋・倉は第11、12表のものがある。

第12表 石 倉

番	所 在 地
1	上ノ上本町愛甲軍蔵旧宅
2	中ノ下町森山商店
3	中ノ仲町町森林組合
4	中ノ仲町農業共同組合
5	中ノ向植村住吉健三宅
6	中ノ川北折田宅（土倉）

ケ 一里塚・二里塚 宮之城方面に行く県道沿いに里

程標がある。丸岡のものが一里塚、古城のものが二里塚である。どれも横川駅を基準にしているものである。

現在では里程が正しくないが、これは道路の拡張工事による里程標の移転と道路の変更によるものである。

コ 記念碑 小学校の統廃合や移転、中学校の統合に

よる校舎跡にはそれぞれに記念碑が建っている。山ヶ野小跡、高木小跡、横川小跡、向陽中跡などである。

また、商工会館前の明治初期の郷校跡には「郷校跡」

「役所跡」の石碑がある。

下植村の万膳川右岸には「万膳川改修記念碑」があり、山ノ口の旧県道沿いには「耕地整理記念碑」があ



上牟田橋（上ノ溝辺町境）

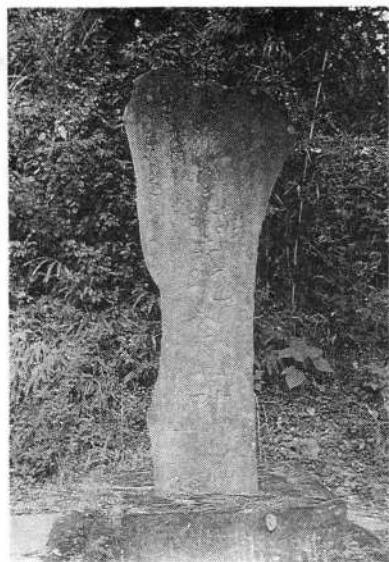


郷校跡（仲町）



万膳川改修記念碑





開墾記念碑（下植村）



耕地整理記念碑（山ノ口）



金山創業主の碑（徳源社）

る。これには、「大正二年三月一日起工 大正二年五月十七日竣工」と記してある。

また、昭和二年五月建立の「開墾記念碑」が下植村にある。「昭和二年三月工事着手、昭和三年五月竣工」と記してある。

また、上向江招魂社と山ヶ野ゲートボール場には戊辰戦役以後の役記念碑と戦没者慰霊碑が建っており、高木の徳源社境内には「金山創業主の碑」が建っている。

サ 西南戦役の土塁 深川を見下ろす二石田側の山の斜面に薩軍側が築いた土塁が残っている。

## 第四節 無形民俗文化財

### (一) 民俗芸能

横川には各集落に伝統芸能としての民俗芸能があったらしいのだが、現在ではそれを伝承しているのは第13表のとおりである。

第13表 民俗芸能

番	芸能名	集落名	番	芸能名	集落名
1	四方立舞	小脇	7	鎌踊	柿木
2	田の神舞	〃	8	バラ踊	紫尾田
3	太鼓踊	正牟田	9	〃	上植村
4	〃	向植村	10	俵踊	北園
5	棒踊	山ノ口	11	建築踊	紫尾田
6	〃	横伏敷	12	ドンジ節	下植村

しかし、これらの中のいくつかはすでに後継者がいないため、その存続が危ぶまれている。

ア 安良神社に伝わる四方立舞は旧九月二十九日に行われる例祭で演じられるもので、相当昔から伝わっている。



小脇の四方立舞

る。

## ○ 詞章

## (1) 土の神の言葉

ただいまここに現れたもうおん神は、いかなる神と  
 うらん。戊つちのえ己つちのえ領地たもう中央の土神とは我がことな  
 り。これより東方のおん神はいかなる神とてまします  
 か。

## (2) 木の神の言葉

甲きのえ乙きのえ東方の木神とは我がことなり。これより南方の  
 おん神はいかなる神とてましますか。

## (3) 火の神の言葉

丙ひのえ丁ひのえ南方の火神とは我がことなり。これより西方の  
 おん神はいかなる神とてましますか。

## (4) 金の神の言葉

庚かのえ辛かのえ西方の金神とは我がことなり。これより北方の  
 おん神はいかなる神とてましますか。

## (5) 水の神の言葉

壬みづのえ癸みづのえ北方の水神とは我がことなり。そもそも五方  
 と名付け奉ること五行の徳を表し、木火土金水青黄白赤  
 黒諸々の神ただいまここに現れたもう。八雲立つ出雲八  
 重垣立ちこめて、今こそ見すれ神の姿なり。

八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに

八重垣つくる その八重垣を

○ イ

田の神舞は四方立舞と同日に同場所で行われる。

詞章

前段

そもそも、天照大神は先に生まれさせたまへども女子にてましまして、日本の総子となりたもう。スサノオノ命は以後に生まれさせたまへども、男子にてましまして、日本の総社となりたもう。女子が男子に劣ることいこんなりと思ひ、月日の光を奪い取り、天の岩戸に入りたもう。

日本の両夜は闇となり、地は絵面海の如くなり、その時、九州の神祇名同はそれを悲しみ、岩戸の前に集まり、庭火をたき、三種の神器を櫛に掛け、南さくという楽を始め、ひ曲という舞を舞ひ、衣の袖をひるがえし候えども、更に神命得られんもましまして、その時、龍藏権現<sup>たつみかみ</sup>手力男<sup>たぢからおとこ</sup>命は、八百万の力持ちゆえ、岩戸の左前に立ち寄り、左の扉を引き分け引き離し、八万四に投げ付けたまへば、日向の海は一つの島となりたもう。今はその島を青島と申す。

中段

① 神家大明神とは我がことなり。そもそも、天照大神はおげこじやいげな。そいで そまんもつば ひとくほちっ上げんなら。

② どちら、もせたるかい。ん、こらゆもせた。ど

ら、つかんなら。コッココッコ……………。

③ ここんあたいの子どんな、いやしもんじや。きねん音がすれば 鼻揃えつ来いが。あちへ行け。いんま残ったときや ひとつどま くるつで。

④ どちら、もまんなら。ほこらいて つつばつけんなら。ほう、どつさいできた。

ま、天照大神に上げんならんとん、上のもんな下からちゅうこつがあつたで。かんぎけよ せんなんこらつ人あとができた。ま、ひとつどまねじつこめ。ま、一つおんめらそかい。

⑤ はら、天照大神に上げんならんならじやつた。今からでん上げんなら。

はい はい 子どもんしもくるつで。そいそい。

⑥ 天照大神に上げんじ、我が口おんめらしたや 口もないるんご ひんなつた。

子どもんたつも、神さへ 上げんうち くな。罰があたつせえ こげんひんなつた。

ウ 正牟田の太鼓踊も相当昔からあつたと伝えられている。現在も正牟田の青壮年たちが、陣笠・陣羽織・白じゅばん・黒たび・黒ももひきや白短パン姿で草鞋<sup>わらじ</sup>を履いて背に矢旗を立てて勇壮に踊っている。

○ 歌詞



正牟田太鼓踊

前マクイの歌

① うれしゆ めでたあ 若松さまよ

枝も栄える 葉も茂る

② 霧島山に 立ちたる雲は

祖国の人の 目を覚ます

③ 向江の土手に 鳴くすず虫が

朝草切りの 目を覚ます

中庭マクイの歌

① 君はさながら籠の鳥 籠の鳥ではなけれども

親が出さねば 籠の鳥

② 稚児のさげ緒と 我が帯と

結び合わせて 今朝見れば

岳の白雪や とけ(溶・解)はせぬ

岳の白雪や とけはせぬ

③ 前の小山に 竹きい いこや

人よたもれよ 尺八を

人よ尺八や ね(音)が出らぬ

人よ尺八や ね(音)が出らぬ

後マクイの歌

① 霧島山に 山に立ちたる雲は

祖国の人の目を覚ます

② 向江の土手に 土手に鳴くすず虫が

暑さに泣く朝草切りの目を覚ます

③ わしが弟の寅若は 今年十五にならねども

今日初めて午前だち しらくは華やかに

白い鎧にあかがね(銅)の

みがきのこしうち

エ 北園の俵踊は薩摩町中津川の大石神社で踊られてい

たものを習い伝えたものという。絆<sup>かすり</sup>の上着とモンペ姿

で俵を持って、三味線と歌に合わせて踊る祝い時の踊りである。

○ 歌詞

① 御用はめでたのあれわいさ

御用はめでたのさんさ わかよ 親もさ 親もさ

② 沖の大船の磯端で…… 三反の帆を巻き上げて おも

かじ とりかじ 雪あられ 向こうの島から女郎衆が

出てきて招くやら 見るより 船頭さんが櫓を立てた

錨をジャンプと港入れ ああ よかね よかね

③ 今年や豊年 ホにホが咲いた 升もいらすに 箕で計

れ

オ 柿木の鎌踊は明治中期ごろ川辺地方から一人の農夫

がやってきて滞在したとき伝えたといわれている。棒

踊系の踊りである。

○ 歌詞



柿木鎌踊

(上げ歌)

うしろは山で——うしろは山で 前は大川  
 焼け野の雉は——焼け野の雉は 岡の背に住む  
 今こそ通る——今こそ通る 神々の物詣い

(二) かやぶき屋根の家造りの習俗

かやぶき屋根が一般的であった時代の家の建て方は、  
 大体次のような手順と習わしによっていた。

- ① 敷地の選定と地鎮祭
- ② 大工が地割りをすると柱を立てる場所が決まる
- ③ 地つきをする (大黒柱の所から始めて、全部終わったら  
 また大黒柱の所へ戻って最後の地締めをする)
- 地つきの歌

(音頭をとる人が最初に歌う)

アソイシャヨー

花は霧島 ヤーハーエー

ヤットコセーノヨイヤナー

アシャント たばこは国分 ヨホイトナー

アソイジャヨー 燃えてあがるは

ヤーハーエー

アシャント 桜島 ジイガ

ヨホイトナー

(全員で綱をひきながら歌う)

ジャンドガソーラーハーハーデ

ヘワハガラガヨイヨイ

ヨイコラセーエノヨイコラセー

- ④ 石口を固定して埋め込む
- ⑤ 柱や桁・梁を組み立てて棟上げをする
- ⑥ 棟上げ祝いは盛大に行う
- ⑦ かやぶきをし、いらか作りをして終わる
- ⑧ それから、お神酒と桑団子・米・塩などが家の裏の方から上げられる。それをかやがえをした人皆で東西の鼻神に「鼻神へ上げます」と言って上げる。皆はさかすき一杯のお神酒をいただく。それから、下で待っている子どもたちにとぎを投げる。子どもも大人も競ってそれを拾う。拾ったときは絶対に焼いては食べない。

## 第五節 年中行事

社会構造の変遷、世代の交代などにより旧来の伝統的年中行事は廃れつつある。次に挙げる年中行事は、現在も行われているものと、すでに廃れた行事の両方である。

- 一月一日 年始回り、初詣<sup>も</sup>で
- 二日 書き初め、二日山、二日商い、二日風呂
- 六日 消防出初め式
- 七日 七草、鬼火焚<sup>た</sup>き
- 一四日 餅の日、かせだうち、はらめうち
- 一五日 おねっこ焚き
- 一六日 山ノ神祭り（正五九月の一六日に行う）
- 一日か二六日 お伊勢講（正五九月の一六日に行う）
- 二〇日 二十日正月
- 申の日 庚申講
- 三一日 送り正月
- 二月六日 秋葉講
- 三月六日 ひなまつり

- 二二日 彼岸（九月二三日ごろもある）
  - 四月四日 馬頭観音祭り
  - （旧三月三日・九月二九日）安良神社例祭、浜下り
  - 二二日 徳源社祭り（一〇月にも例祭があった）
  - 五月五日 端午の節句
  - （旧曆四月九日）田の神講（旧一〇月九日にもある）
  - 六月八日 薬師如来祭り
  - （家庭ごとに）さのぼり
  - （旧曆五月二八日）曾我どんの傘焼き
  - 七月（神社ごとに）六月灯
  - 八月五日 ぎおん祭り
  - 七日 七夕祭り
  - 一五日 うら盆会
  - 九月（旧曆八月一日）八朔<sup>はっさく</sup>の節
  - （旧八月一五日）十五夜
  - 一月一九日 ほぜ祭り（放生会、豊年祭り）・水天講
  - 一二月一四日 赤穂義士伝輪読会、夜間行軍
  - 三一日 大晦日、年越しそば
- これらのほかに、日照り続きでかんばつのおそれがある年には雨乞<sup>あまご</sup>いの祈りをしたり、春先に村の共有地の野焼きをしたり、集落ごとに又は講仲間ごとにする年中行事があった。



また、新しくは、隔年一月三日の「体力づくり町民体育祭」と毎年一月二三日の「むらづくり町民祭」が定着しつつある。

## 第六節 伝説・民話

町内の伝説・民話のあらましを記すことにする。

### ① 安良姫物語

千二百八十余年も前、都の官女であつた安良姫は川辺で君の大事な直垂ひたれを洗っていたが、白さぎの美しさに見とれてそれを流してしまった。火あぶりの極刑に処せられるところを十一面観音に助けられて横川の地に來た。しかし、追っ手を苦にして安良山頂で自害した。哀れに思った村人たちは山頂に葬り、安良神社を建てた。

### ② 腰越神社物語

安良姫が刑死をまぬがれて横川の地に身をしのんでいると聞いた母君は、小脇まで尋ねて來たが見つからず、村人も追っ手の者だろうと思つて姫の所在を明かしてくれなかった。母君は失望し小脇の地で自害した。村人は母心の廣大無辺さに心打たれて腰越神社を

建て、母君の霊を祀った。

③ 奇岩「大鍋小鍋」物語

元氣ざかりの少年兄弟が、金山川の大鍋小鍋おがねこなといわれる所でむべやあけびを採ろうとして岩に上り、弟がすべって川淵に落ち溺死でせした。親や村人たちの悲しみは一通りでなく水神碑を建て霊を慰めた。

④ 「西きよ」物語

昭和の初期と思われる。横川出身の西きよという娘は大阪の紡績女工となった。大変な辛抱家で親孝行者だった。無駄遣いせずせつせと家に送金していた。無理がたたって病気になっても病気の心配よりも送金できないことの方が心配だったので、医者言うこともきかず工場に出たので鹿児島鹿児島の者はよく働くと折り紙をつけられた。

⑤ 黒葛原の良義菩薩

二百数十年前のこと、鬼塚良義は八木四郎、大浦、吉井らの協力を得て黒葛原に新田を開いた。大変な苦労と努力のおかげで完成したからだろうか、その後用水路の水干しをすると土用の炎天下でもたちまち冷寒

天地を覆い風雨となった。まことに不思議な現象のため、人々はこの現象があると「黒葛原の水干しだらう」といったことである。良義の靈魂がこうさせるのだらうといわれている。

⑥ 子産恵の宮物語

岩堂観音の奥に洞窟があり、三柱の神が祀ってある。子めぐみの神と安産の神と乳の神である。ある夫婦が子ども欲しさに岩堂観音にお参りした。すると、神が現れ、「洞窟に子めぐみの神がいるのでそこを訪ねるがよい。」と言われた。そのようにすると、「ここにあまかずらで作った甘酒があるので飲むとよい。」と言われた。そのようにすると子どもに恵まれた。今度は乳が出なかつたので再び祈願すると乳が出るようになった。三度目に行くと神の姿はなく酒も水に変わっていた。夫婦が祀った三柱の神がこの洞窟のお宮だという。

⑦ かっぱ（河童）と山神祭り

春には山から川に下って来、秋には山へ登って行く。一月と九月の一六日に山神祭りがあがるが、この日

は山の木を切ることをしない。山のかっぱが洗濯をする日で山一杯に干しているのかっぱに迷惑がかかるからという。

### ⑧ ダンドンの滝

馬渡のダンドンのいぜき下の滝つぼに小山のような岩があったが、ある夏の暑い日に雷鳴とともに竜となり天に昇っていった。竜は地下に千年山に千年水に千年住んで神通力を得るといわれるが、この石はダンドンの滝に千年住んで竜と化し天に昇っていったものである。竜の昇天を見ると大病をして死ぬといわれるが、この場面を見た馬渡の市助じいさんは正直者だったので、神が守ってくれたのだから八五歳まで長生きした。

### ⑨ 萩の段心中と川元どんの堰

馬渡の向江ん屋敷に萩の段<sup>はぎ</sup>というところがあった。萩の段の裏山は昼なお暗い深山で、鬼<sup>おに</sup>が住むとも大蛇がいるともいわれて大人も一人では立ち入らなかつた。この萩の段に千沙という美しい娘がいた。馬渡（昔はウシトゴチ<sup>うしとごち</sup>といった）の青年たちは千沙を口説

きに毎晩のようにヨバイに出かけたが、萩の段の若者に邪魔されていつも失敗ばかりしていた。ウシトゴチの若者でヨバイにも行けない松生という貧乏人がいたが、ある日萩の段の名主で村一番の分限者である千沙の親から日雇いの口がかかり、それがもとで千沙と松生の仲は急に深くなっていった。しかし、分限者の娘と貧乏人の青年のため千沙の親に反対された。また、村の人々にもあらぬ噂をされた。ついに二人は堀<sup>ほり</sup>の山の竹橋から投身自殺したのだった。それで最近までは橋の下<sup>した</sup>の滝つぼを千沙が淵と呼んでいたが、町の川元という人がいぜきを作ったので川元どんの堰<sup>せき</sup>と呼ぶようになったということである。

### ⑩ 金徳どんの掘り切り

明治のころ鬼塚金徳という人がいた。年若くしてひとかどの学者であったが、深川から二牟礼への道路建設を請け負い、人夫を雇い工事に着手した。が、間もなく岩盤に出あい、驚いた金徳は大損せぬうちに請負を他に譲った。しかし、岩盤は二メートルほどで終わり、請け負った人は巨額の利益を得たという。今で

も深川の人はここを「金徳どんのほいきい」と呼んでいる。

## 第七節 ことわざ

発掘採集すれば、まだまだあるであらう。よく聞かれるものを挙げてみる。あるものは、訛音、方言そのままに表記してみた。

- ① 韓国岳に雪が強く積もれば寒が強い。高千穂の峰に雪が強く積もれば寒が弱い
- ② 韓国岳に雲がかかれば、あくる日は雨
- ③ 汽笛が聞こゆれば雨が降る
- ④ こっかぜ（東風）ん しいや雨
- ⑤ 風が山（安良山）吹けあ 雨となる
- ⑥ 雲が山（金山）に流れりや 大雨が降る
- ⑦ 杉は谷、檜は中ほど、松は峰
- ⑧ 柿の実がならんときや 鉋を切り込め
- ⑨ 岳は雪、下々は黒ジョカ
- ⑩ ゴシキのみんな風（耳取風）
- ⑪ 木は元から 竹はうらから（割り方）
- ⑫ 木六 竹八（きり時、手入れ時）
- ⑬ 嫁女もろとか親見てもろえ
- ⑭ 人は人中 田は田中

## 第八節 村歌・校歌

### (一) 横川村の歌

「箱根の山」の調子で明治・大正のころ歌われた。

横川村は北部の地 吾等の住する所なり

安良岳 金山川 北部にそびえ 中央流る

戸数一千三百 人口七千五百

美風を伝え 農事につとめ

五穀の実のり 田畑に豊なり

道路四方に開けて 交通の便多し

あゝ我が愛町 雄飛の同胞

心を一に力を合せて 百般の事業 励みて進み

かくてぞ挙げなん 我が町の誉を

### (二) 横川小学校校歌

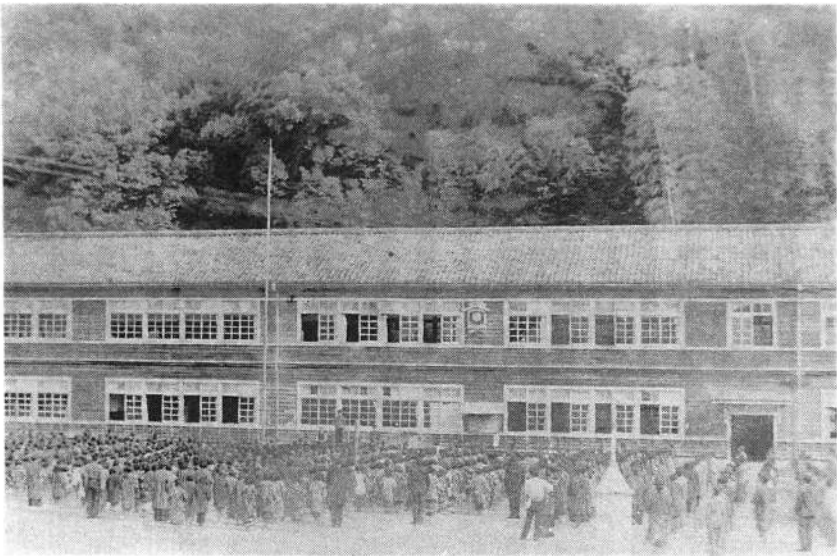
大正十二、三年ごろ、すなわち尋

常高等小学校時代から歌われた。

一、木々に千歳の色そえて のぞみは広き愛宕山



横川小校章



横川小旧校舎

しずまりませる神霊の

運命永久にしろしめす

二、生氣あふれる境内に

横川校の名を負いて

たのしき我等もろともに

百鍊千磨の功ぞ積む

三、その絶倫の才能は

大和島根の精粹を

縦横無尽に發揮して

何か成らざることやある

四、仁義の旗を振りかざし

意気衝天の慨をもて

我等の雄図を大成し

世に赫々の名をあげよ

現在の校歌は、次のように歌われている。

一、金山川に影さして

広い学び舎広い庭

ひとみ明るく元氣よく

せいっぱいに学ぶのだ

われらは小学 横川校

二、緑の風のわくところ

強いからだに強い魂

みんななかよく肩くんで

あしなみそろえ進むのだ

われらは小学 横川校

三、朝夕仰ぐ高千穂の

高いいただき高い空

のぞみおおきくたくましくはばたく夢に生きるのだ

われらは小学 横川校

(三) 山ヶ野小学校校歌



旧山ヶ野小学校章

昭和初期ごろの校歌は、伝統と使命を歌っていた。



山ヶ野小旧校舎

一、黄金花咲く我が郷は 島津の御世に幾百年

古き歴史の露受けて 高くそびゆる山ヶ野校

向上の意気日燃えて 通う学友五百人

二、あゝその健児の分たれぞ 我が愛らしき学友よ

朝夕正しき道を踏み 我等の使命果さんと

響ぞ渡る叫び声 若葉匂うグラウンドに

また、統合前の校歌は、自然と希望を歌っていた。

一、山脈遠く起き伏して 遙かに仰ぐ高千穂よ

学びの窓にきょうもまた

瞳明るく元氣よく 通うよい子だ山ヶ野校

二、金山川のせゝらぎに 国見が岳の若草に

手を取り肩を組み合って

皆仲良く助けあい はげむよい子だ山ヶ野校

三、輝く歴史今もなお かい空青く澄む所

翼も強く羽ばたいて

望大きくたくましく 生きるよい子だ山ヶ野校

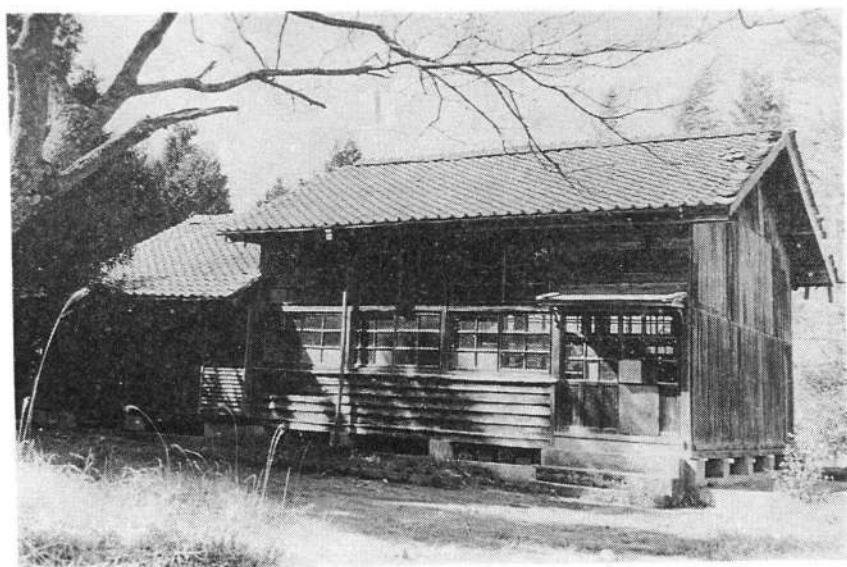
#### (四) 高木小学校校歌

統合前の校歌を掲げる。

一、国見の山のふところに ま清水きよくわくところ

ひとみ明るく元氣よく 学ぶ僕らだわたしらだ

真理は光れ高木校



旧高木小学校

二、徳源公のいさおしを 朝な夕なにしのびつつ  
 みんな仲よく肩くんで はげむ僕らだわたりらだ  
 友愛かおれ高木校

三、はるかに仰ぐ紫尾の山 あかねの雲にははたいて  
 つばさおしくたくましく伸びる僕らだわたりらだ  
 希望にもえよ高木校

(五) 安良小学校校歌

一、東にはるか霧島の  
 山を揚げばきょうもまた

夢が希望がわいてくる 友よ学ぼう胸はって

明日の日本を背負うのだ

二、貝吹ヶ丘に攻めん山 わたる朝風そよそよと

若い命がもえあがる 友よ伸びようたくましく

空が光がよんでいる

三、紫尾田の川のせせらぎに 長い歴史をきょうもきき

かたくないだちかいの輪 友ようたおう高らかに  
 夢とまことの鐘がなる

(六) 佐々木小学校校歌

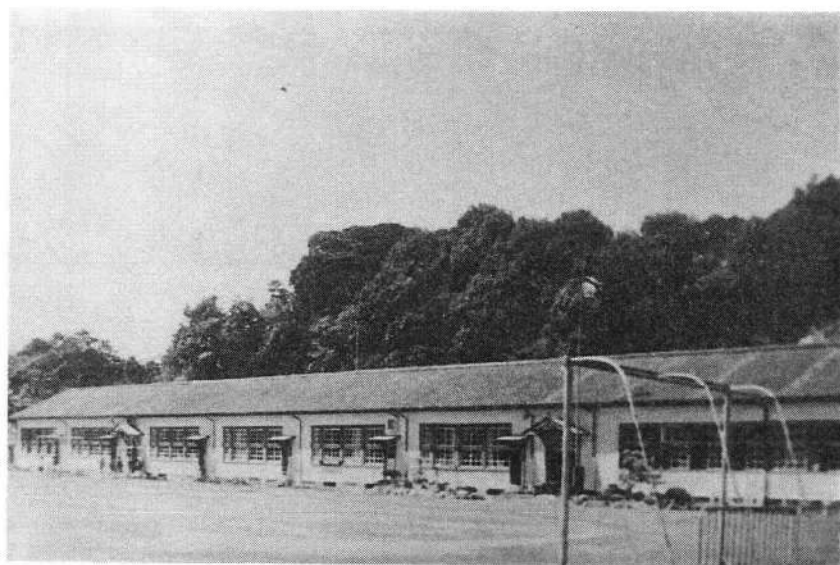
下原小学校時代の校歌は、次の



佐々木小学校章



安良小学校章



安良小旧校舎



ように歌われていた。

一、皇祖発祥の靈域に 育つ我等下原校健児

学びの道に勤しみて 貫きとおさん真実を

我等健児の意気い昂し 我等健児の意気昂し

二、親愛自治勤勉の矛とりて 進取の駒に鞭うちて

心を磨く学舎に 今や励まん師と共に

我等健児の意気い昂し 我等健児の意気昂し

三、御稔威輝く我が日の本の 使命は重き下原校健児

朝な夕なに命を守り いざや立たなん諸共に

我等健児の意気い昂し 我等健児の意気昂し

現在は、次のように歌っている。

一、万古の姿うるわしき 霧島山の見はるかし

林野はしなく地はうまし ああわが郷土佐々木校

二、名馬にちなむ城のあと 岩堂観音赤水と

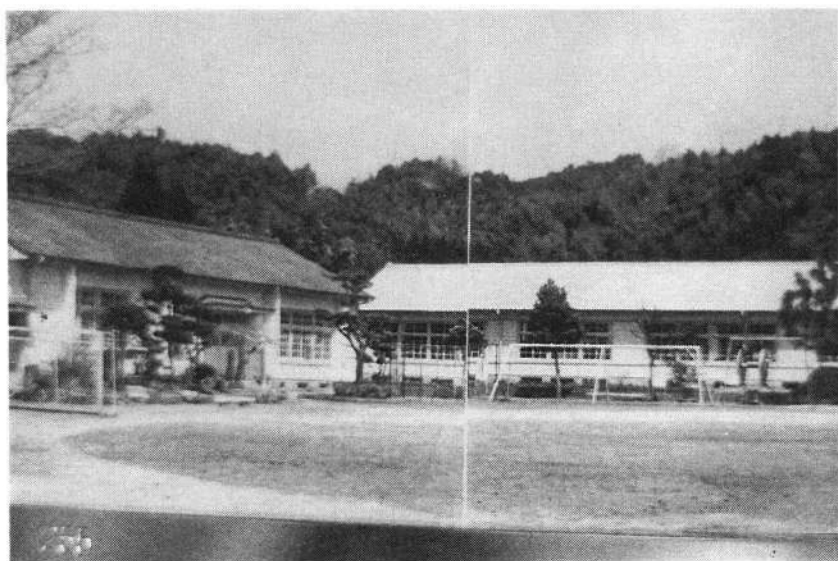
昔しのべばなつかしや ああわが郷土佐々木校

三、この山水をたたえきし 祖先の意志をうけつぎて

たゆまずうますみずからに 学びの道にはげまなむ

四、今や世界と手をつなぎ 平和文化の建設に

いそしむ時ぞ日の本の いしづえ固くきずかなん



佐々木小旧校舎

第8節 村歌・校歌

(七) 横川中学校校歌

一、雲青し 松の城山

夢はるか 安良み社

地は古く陽は新しく

質実の伝統晴れて

研鑽の志気鳴るところ

横川 横川中学校

自主の鐘 ま澄む学びや

二、水清し ささら金山

月さやか 招く霧島

父祖に継ぐ天恵ゆたかに

青春の虹を奏でて

向上の汗照るところ

横川 横川中学校

栄光満つ 希望の学びや

(八) 向陽中学校校歌

統合前の校歌を掲げる。

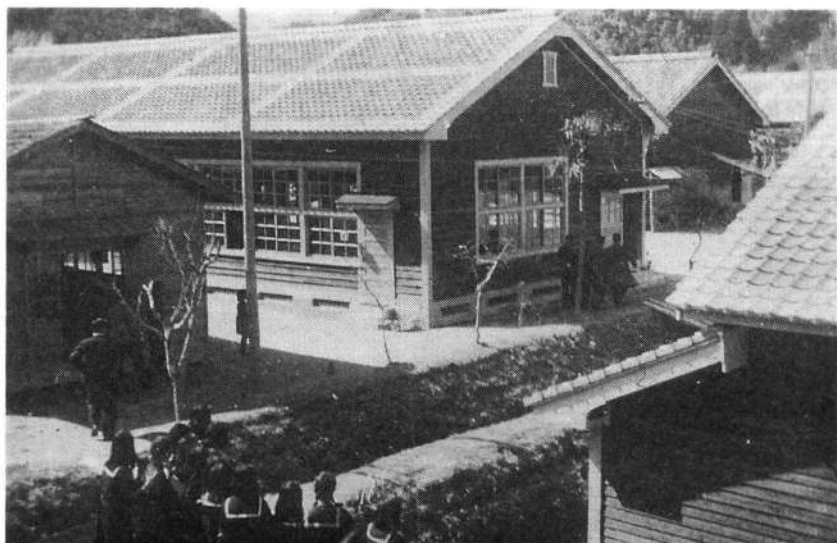
一、緑が丘のスロープに



向陽中学校章



横川中学校章



横川中学校旧校舎

朝日かがやく霧島を  
東にのぞむ向陽の

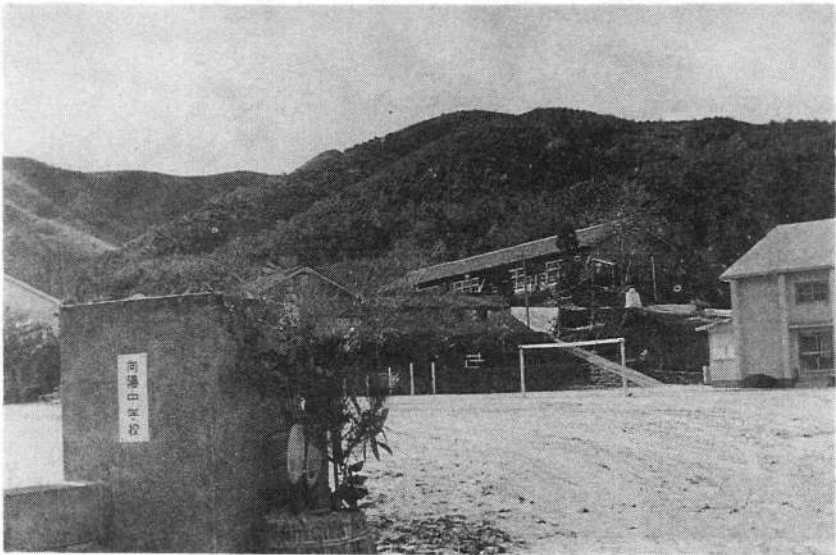
その名の如きれいろうの  
わが学び舎に幸ありき  
われらが庭に夢ありき

二、  
ああその夢にはぐくまれ  
あしたに夕に新しき

学びの道を究めつつ  
つとめてやまぬ向上の

道はるかなりわがゆく  
道大いなりわが理想

三、  
百折ふとうかんなんの  
道続くとも踏み越えて  
などで行かん新しき  
われらが国をおこすため  
われらが幸を築くため  
胸に不滅の光あり



前向陽中学校